

## CSW55 に参加して

政府代表団顧問 田中正子  
(日本女性監視機構代表代行)

2011 年 5 月 17 日

### 1. 全日程 (2 月 22 日～3 月 4 日) 中 3 月 2 日までの全会議に参加

入場制限が NGO に課せられた中で、政府代表団顧問という立場のため、会議場への入場制限をまったく受けなかったのが、合意結論案に関する非公式協議にいたるまで、何の制限も受けずすべての会議に参加できた。

個々のテーマに関する議論では視点の点で印象に残ったことも多くあったが、合意結論に集約されているので、今後は日本政府が、政策の中で、合意結論に盛り込まれた視点をどのように生かしていくのかに注目していきたいと思う。

特に、科学・技術のテーマで、パネリストの一人、テルアビブ大学のメッサー教授 (電気工学) が、科学・技術、特に工学系への女性の進出は少ないのは世界的傾向であるが、データを良く見ると、バイオ・メディカル・エンジニアリング、環境工学、経営工学などヒューマンなエンジニアリングには進出している、学際的な領域が学問として発達していけば、それにとまなうテクノロジーの開発も進む、女性がテクノロジーを変えていけばよいのだ、グリーン化学や、環境科学が突破口になるだろう、との発言は強く印象に残った。

### 2. UN Women・バチエレ事務局長と NGO の会見 (2 月 26 日(土)@CCUN)

世界 5 大陸から各 15 人の NGO がバチエレ事務局長と会見。私も APWW (アジア太平洋女性監視機構) の一員として参加した。事務局長は、5 項目の基本方針を述べ、6 月に戦略的計画 (Strategic Plan) を発表するとのことであった。その後、一人ひとりが UN Women に要望や期待を述べた。これに対し、事務局長は、資金の調達が決定的であると繰り返し述べた。今後、各国政府の協力が不可欠との印象を受けた。

### 3. 日本政府との連携

#### (1) パラレルイベント (原ひろ子氏の報告参照)

3 NGO の共催・日本政府の後援のパラレルイベントとして 3 回目であり、国連代表部には、きめの細かいサポートをしてもらっている。外国の NGO に日本に関心をもってもらえる良いチャンスとなっているので、今後もぜひ続けたい。

#### (2) 日本の NGO へのブリーフィング(2 回)

橋本ヒロ子政府代表および木村徹也公使から UN Women への対応など懇切丁寧な説明があり、とてもわかりやすかった。政府との貴重な意見交換の場なので、今後ともぜひ続けていきたい。

### 4. NGO 顧問の役割

政府代表と NGO の意見交換の橋渡し役をもっと積極的に務める必要がある。

以上